

平成 20 年
4 月 30 日

病害虫発生予報 5 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

| | |
|----------------------|---|
| 麦類：赤かび病 | 1 |
| ナシ：黒星病 | 1 |
| 促成キュウリ：褐斑病 | 2 |
| 半促成ピーマン：うどんこ病，アザミウマ類 | 2 |

| | |
|--|---|
| 【その他の病害虫】 | 3 |
| 水稲，ナシ，カキ，果樹共通，メロン，促成キュウリ，促成トマト，夏ネギ，スイカ | |

. 病害虫ミニ情報

| | |
|----------------------------|---|
| ナシに寄生するアブラムシ類の薬剤感受性と防除について | 5 |
| イチゴの炭そ病について | 6 |

| | |
|-----------|---|
| . 今月の気象予報 | 7 |
|-----------|---|

| | |
|------------|---|
| . テレホンサービス | 7 |
|------------|---|

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 20 年 4 月 23 日現在のものです。

水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を 1 週間程度とすること。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

麦 類

1. 赤かび病

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 平年並 | 平年並 | 県下全域 |

[予報の根拠]

大麦の出穂期は、平年よりやや早まったが、小麦の出穂期は平年並と予想される。向こう1か月の気象予報によると、平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。

[防除上注意すべき事項]

小麦の防除適期は、開花期（出穂後7～10日）である。圃場ごとの生育状況をよく確認し、適期に必ず薬剤散布を行う。

本病原菌は、麦の開花期から10日程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が20以上になると本病の発生が多くなる。この間の気象には十分注意し、発病の好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布後7～10日に2回目の散布を行う。ただし、出穂期以降1回しか使用できない薬剤があるので注意する。

倒伏や収穫の遅れにより発生が助長される恐れがあるため、適期収穫に努める。また、収穫後は速やかに乾燥調製を行う。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 早い | 多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

4月下旬現在、発病果そう率及び発生地点率は平年より高い。特に県西地域では発生が多い。

[防除上注意すべき事項]

果そう基部病斑は、葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第果そうごと除去し、地中深く埋める。

発病果そうを除去後、参考防除例（防除暦）に基づき、薬剤防除を確実に実施する。

薬剤散布は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

（平成20年5月1日発表の病害虫注意報 No.1 参照）

促成キュウリ

1. 褐斑病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|---------|------|
| - | やや多い~多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

4月下旬現在，発病葉率，発生地点率ともに平年より高い。

向こう1か月の気象予報によると，降水量は少なく，日照時間も多いと予想され，発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

収穫終期は，発生が増加する傾向にあるため注意する。

罹病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

ハウス内が多湿になると発生しやすいため，適切な換気に努める。

薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

半促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| 平年並 | 多い | 鹿行地域 |

[予報の根拠]

4月下旬現在，発病度，発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。

罹病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤は，葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

2. アザミウマ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| - | やや多い | 鹿行地域 |

[予報の根拠]

4月下旬現在，寄生花率，発生地点率ともに平年よりやや高い。

(半促成ピーマン アザミウマ類 続き)

[防除上注意すべき事項]

アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。

薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|--------|-------------|------------------------|---|
| 水稲 | イネミズゾウムシ | 発生時期: やや遅い 発生量: - | 4月下旬現在, 活動開始時期は平年より10日程度遅い。向こう1か月の気象予報によると, 気温は平年より高いと予想され, イネミズゾウムシの本田での生息数が最高に達する時期は5月下旬頃になると予想される。 |
| ナシ | ナシヒメシンクイ | 発生時期: やや早い 発生量: 平年並 | 4月下旬現在, フェロモントラップへの誘殺は平年よりやや早く, 誘殺数は, 平年並である。コンフューザーNを設置する園では, 設置前にシンクイムシ類の防除を実施する。 |
| | アブラムシ類 | 発生時期: 平年並 発生量: 平年並 | 発生を認めた場合は, できるだけ葉ごと取り除く。薬剤散布は, 発生密度の低いうちに行う。 |
| カキ | カキクダアザミウマ | 発生量: 平年並 | 4月下旬現在, 発生を認めない。新葉が巻き込む被害が認められたら, 直ちに防除を行う。 |
| 果樹共通 | 果樹カメムシ類 | 発生量: やや多い (越冬成虫) | チャバネアオカメムシの越冬量は, 平年よりやや多い。年によっては5月から果樹園へ飛来することがあるので, 発生に注意する。 |
| メロン | べと病 | 発生量: 平年並 ~ やや多い | 4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。向こう1か月の気象予報によると, 降水量は少なく, 日照時間も多いと予想され, 発生を助長する条件ではない。 |
| 促成キュウリ | うどんこ病 | 発生量: 平年並 ~ やや多い | 4月下旬現在, 平年並からやや多い発生である。 |
| | アブラムシ類 | 発生量: 多い | 4月下旬現在, 平年より多い発生である。 |
| | ミナミキイロアザミウマ | 発生量: 多い | 4月下旬現在, 平年より多い発生である。 |
| 促成トマト | 灰色かび病 | 発生量: やや多い | 4月下旬現在, 平年より多い発生である。向こう1か月の気象予報によると, 降水量は少なく, 日照時間も多いと予想され, 発生を助長する条件ではない。 |

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|-----|---------|------------------|--|
| 夏ネギ | ネギアザミウマ | 発生量：平年並 ～やや多い | 4月下旬現在、越冬ネギにおける発生は平年並であった。気象予報によると向こう1か月の気温は高く、発生を助長する条件である。 |
| スイカ | つる枯病 | 発生量：やや多い | 4月下旬現在、平年より多い発生である。向こう1か月の気象予報によると、降水量は少なく、日照時間も多いと予想され、発生を助長する条件ではない。 |
| | 炭そ病 | 発生量：やや多い | 4月下旬現在、平年より多い発生である。向こう1か月の気象予報によると、降水量は少なく、日照時間も多いと予想され、発生を助長する条件ではない。 |
| | アブラムシ類 | 発生量：やや多い | 4月下旬現在、平年よりやや多い発生である。 |

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。

ナシに寄生するアブラムシ類の薬剤感受性と防除について

ナシに寄生するアブラムシ類を対象に、平成 19 年版赤ナシ無袋栽培病害虫防除暦（平成 20 年度は参考防除例に名称変更）に採用している薬剤に対する感受性検定を行いました。その結果と防除上の注意点についてお知らせします。

【検定方法】

平成 19 年 6 月下旬に、県内 6 地点のナシ園からワタアブラムシまたはユキヤナギアブラムシの無翅成虫を採集し、検定に供試しました。検定試験は、成虫を薬液に 10 秒間漬ける虫体浸漬法によって行いました。薬液に浸漬した供試虫はナシ葉片を与えて 20 で飼育し、24 時間後の補正死虫率を求めました。

【結果】

ナシのアブラムシ類に対して、イミダクロプリド水和剤（アドマイヤー水和剤）、DMTP 水和剤（スプラサイド水和剤）、ダイアジノン水和剤（ダイアジノン水和剤 34）、チアクロプリド水和剤（バリアード顆粒水和剤）の 4 薬剤を供試したところ、いずれの薬剤も高い殺虫効果が得られました（表）。

表 各地点より採取したアブラムシ類に対する各種薬剤の感受性検定（24 時間後の補正死虫率¹⁾（%）

| 供試薬剤 | 希釈 倍数 (倍) | 採取地点 | A | | B | | C | | D | | E | | F | |
|-------------|-----------------|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | アブラムシ 類の種類 ²⁾ | 1ヶ | 7ヶ | 1ヶ | 1ヶ | 1ヶ | 1ヶ | 1ヶ | 7ヶ | 1ヶ | 1ヶ | 7ヶ | 1ヶ |
| イミダクロプリド水和剤 | 1,000 | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| DMTP 水和剤 | 1,500 | | 100 | 100 | 100 | 96 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 97 | 100 |
| ダイアジノン水和剤 | 1,000 | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| チアクロプリド水和剤 | 4,000 | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 97 | 100 | 100 | 100 |

¹⁾ 補正死虫率（%）= {(対照区の生存虫率 - 処理区の生存虫率) / 対照区の生存虫率} × 100

²⁾ ワタ：ワタアブラムシ，ユキ：ユキヤナギアブラムシ

供試薬剤については平成 20 年 4 月 23 日現在登録があります。

【防除対策】

1. アブラムシ類は増殖が速いため、発生状況に注意し、発生初期に十分な防除を行うことが大切です。薬剤散布の際は周囲への飛散（ドリフト）に十分注意して、徒長枝の先端等にも薬液がよくかかるように丁寧に行ってください。
2. イミダクロプリド水和剤、チアクロプリド水和剤等のネオニコチノイド系剤は、薬剤感受性の低下を防ぐために、年間の合計使用回数を 2 回までとして下さい。
3. アブラムシ類に対する殺虫効果が低下した薬剤を散布すると、アブラムシ類が十分に防除されない一方で、薬剤に弱い天敵昆虫などを殺してしまい、結果的に薬剤を使う前よりアブラムシ類の生息密度が増加することがあります。薬剤散布後は殺虫効果を確認し、次回以降の防除の参考にして下さい。

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ、使用して下さい。

イチゴの炭そ病について

イチゴの炭そ病は本圃では定植直後から発病し枯死する株が多くなる等、イチゴに重大な被害を及ぼす病害です。本圃での発病はほとんどの場合、感染した苗の持ち込みによるもので、定植後の防除は困難です。このため、育苗時からの防除対策が最も重要となります。

【炭そ病の特徴】

病原菌は糸状菌で、葉や葉柄、ランナーに病斑を生じ、クラウンに菌が侵入すると株全体がしおれて枯れます。15 以下では症状は現れにくく、20 以上で発病し始め、25～30 が発病適温です。

外観上健全に見えても保菌している株や、被害残渣を含む土壌が第一次伝染源となります。主に降雨や灌水時の水滴の跳ね上がりとともに孢子が飛散し、周辺の株やランナー、子苗へと感染を拡大していきます。

【防除対策のポイント】

1) 健全苗の利用

親株は定期的に更新し、無病地から選抜した健全な株を用いてください。また本圃に定植する苗も、発病が見られない健全な苗を使用してください。

2) 育苗時の管理

(1) 雨よけ栽培を行う。

本病は主に水滴の跳ね上がりとともに拡大します。このため、降雨による水滴の跳ね上りを防ぐ雨よけ栽培は本病の発病抑制に有効です。

(2) 灌水方法を工夫する。

灌水による水滴の跳ね上りを防止するため頭上灌水は避け、点滴型の灌水チューブを用いるか、弱い流し水等で行ってください。

(3) 育苗方法を工夫する。

ポット育苗等の場合は、育苗床や通路を透水性のあるシートで被覆したり、プランターを利用して地面から離れたベンチの上で栽培すると、水滴の跳ね上がり防止に効果があります。また葉が重ならないように適度な間隔を開け、風通しを良くしましょう。

(4) 病害が発生しにくい環境条件を整える。

育苗は無病の排水の良い圃場で行い、過湿に注意してください。やむを得ず発病圃場で育苗する場合には、土壌消毒を行ってください。

(5) 薬剤は適期に散布する。

台風など強い風雨がいった時や、下葉除去等の株を傷つけるような作業後には、重点的に薬剤散布を行ってください。なお、強風雨の翌日等に急激に天候が回復した時は、葉害の発生に注意してください。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション散布を心がけてください。

(6) 発病株を発見したらすばやく対処する。

発病株を発見したら、発病株と周辺の株を抜き取ってください。また抜き取った株は伝染源となるので不用意に圃場周辺に放置せず、肥料の空き袋等に入れて密封して腐らせるか土中深く埋める等、適切に処分してください。

． 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 4 月 26 日から 5 月 25 日)

気象庁 (4 月 25 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 (%) >

| [確率] | 要素 | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|--------|------|--------|---------|-----|--------|
| | 気温 | 関東甲信全域 | 20 | 30 | 50 |
| | 降水量 | 関東甲信全域 | 40 | 30 | 30 |
| | 日照時間 | 関東甲信全域 | 30 | 30 | 40 |

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。向こう 1 か月の平均気温は高い確率 50% です。

< 1 週目の予報 > 4 月 26 日 (土曜日) から 5 月 2 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 2 週目の予報 > 5 月 3 日 (土曜日) から 5 月 9 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 5 月 10 日 (土曜日) から 5 月 23 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 40%

． テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために，病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029 (226) 5321

5 月上旬 ナシの黒星病について

5 月下旬 果樹の病害虫防除について

病害虫発生予報 1 月号の病害虫ミニ情報の訂正について

平成 19 年 12 月 20 日発表 病害虫発生予報 1 月号の病害虫ミニ情報にて掲載しました，「平成 20 年版果樹等病害虫参考防除例 (旧防除暦) について」の内容を以下のとおり訂正いたします。

5 ページ 平成 20 年版果樹等病害虫参考防除例 (旧防除暦について)

31～32 行目 (露地巨峰の段落) の，『・幼果期 (小豆粒大) : コナカイガラムシ類・チャノキイロアザミウマ防除のため，スタークル顆粒水溶剤を追加しました。』を削除する。